

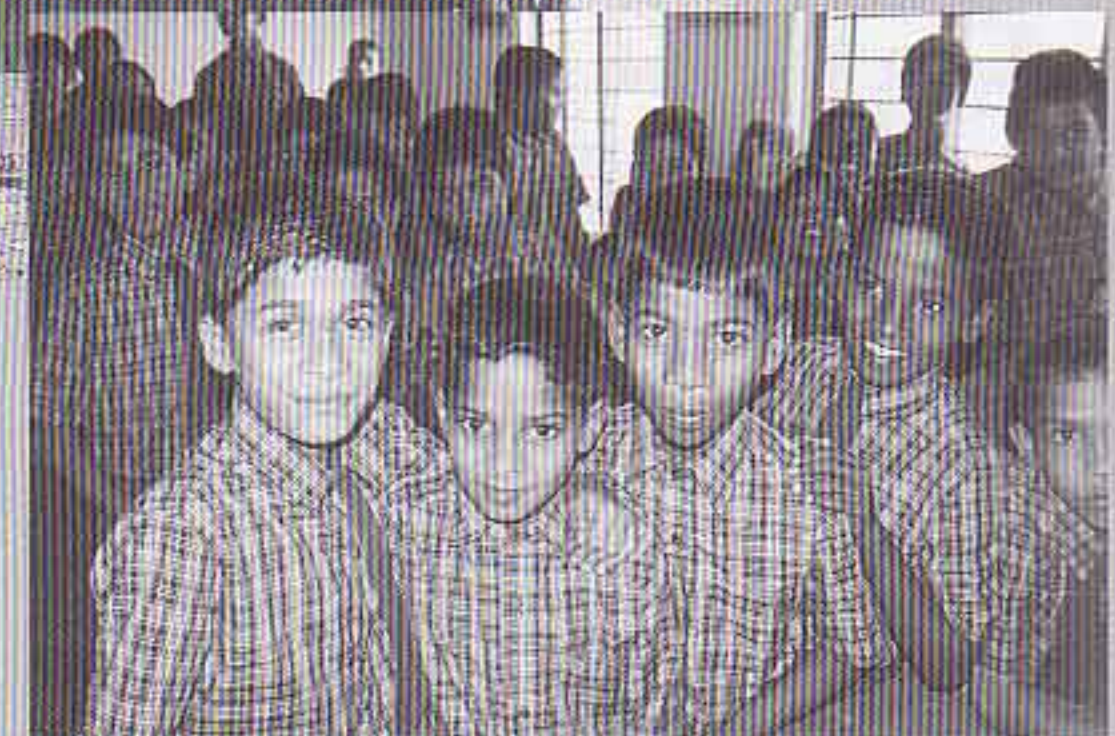
# AIV奨学の会 2006年度活動報告書



ジョドカット学校5～7年生



寄贈した  
コンピュータ



新しいコンピュータの前に・・・

## カルカラ



カルカラ

壺阪寺が初めてインド・カルカラでの石彫事業を開始したのは30年前、現在の工場のある場所に移ってからはちょうど10年を迎えました。そこで10周年を記念して、以前教材などの支援を行ったことのあるウドゥピ ジラパンチャト学校（通称ジョドカット学校）に、コンピュータ2台を寄贈しました。

IT産業が急成長しているインドにおいては、コンピュータ教育は最重要科目の一つです。インド政府は公立学校の教員にコンピュータ講習の受講を定めていますが、実際学校にコンピュータを用意するのはなかなか経済的に困難な状況です。

ジョドカット学校では、5～7年の生徒に週に3日の授業を予定しています。政府の講習を終了した教員1名と近隣のボランティア1名の計2名が担当することになりました。生徒たちは寄贈したコンピュータの前に、「たくさんの技術を覚えたい!」と目を輝かせていました。

## 目次

「カルカラ」活動報告	表紙
活動概要	P1
年間活動報告	P2
「アグラ」活動報告	P3～4
「バンガロール」活動報告	P5
「ワルダ」活動報告	P6
AIV奨学の会報告書	
発行時期変更のお知らせ	裏表紙

# 活動概要

## ○インドでの支援活動の開始

1965年ごろ、日本とインド両政府がインド・アグラに設立した、救ハンセン病センター・ジャルマで、日印の医師が合同でハンセン病患者の救済事業にあたっていました。

先代住職 常盤勝憲長老がインドのこの施設を訪問した折、ここでの医師らの献身的な奉仕活動に感銘を受け、物資などの支援活動を開始しました。

ジャルマでの支援活動を続けていた1977年、ジャルマの敷地内では子どものための青空学校が医師やその妻たちによって開かれていました。アグラで年々増加する教育の需要と、それに対する医師たちの熱意に賛同し、勝憲長老は、ジャルマのすぐ近くにロパ・ムドラ学校の設立を支援、運営助成を開始しました。

1985年には壺阪寺の活動を知った、ある日本のハンセン病患者から遺産が寄せられたことから、インド・ワルダに「壺阪寺救ハンセン奉仕財団」を設立、患者やその子どもたちの福祉の支援に発展しました。

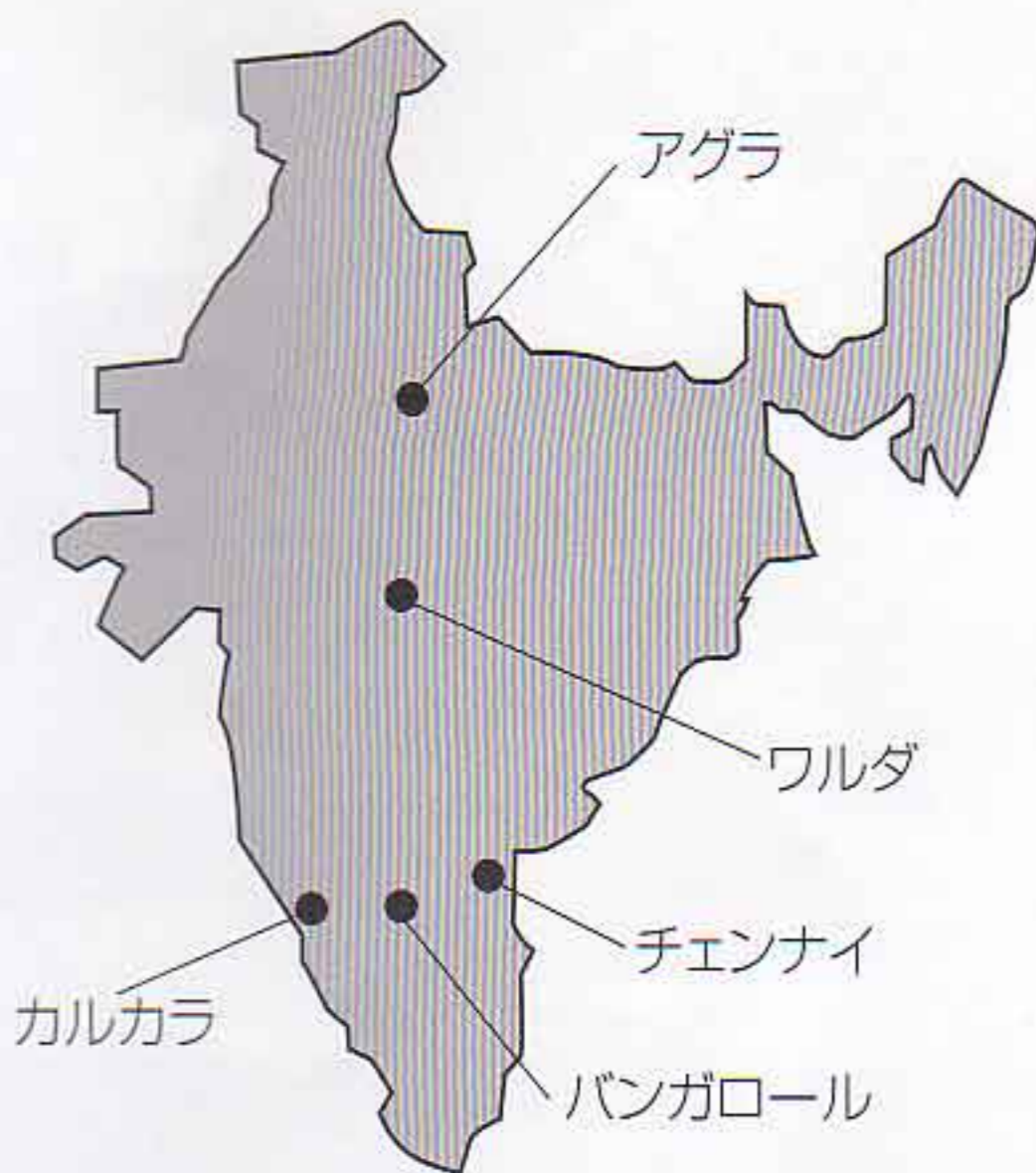


## ○財団設立、AIV奨学の会設立へ

1988年に遷化した勝憲長老のインドでの支援活動を継続し、さらに発展させていくために、1989年10月31日に奈良県知事の認可のもと、『財団法人アジア・アフリカ国際奉仕財団』を設立しました。

設立後は、1993年にインド・ワルダでの奨学金事業の開始、1995年にはインドでの傘下NGOの立ち上げ、ウガンダでの奨学金事業開始など、支援の幅を広げてきました。

このように活動を続けていく中で、子どもたちの明るい未来のため安定した学習環境を提供したい、という思いのもと、財団の教育助成事業をご支援いただく会として、1995年に「AIV奨学の会」が設立され、今日までご支援者の方々に支えられ活動を続けています。



## ○ご支援いただくと...

AIV奨学の会会員の方からいただいたご支援金は、アジア・アフリカ国際奉仕財団を通して、学用品や学費のための奨学金として、インド各地の奨学生たちのもとに届けられます。

会員の方には、奨学生からのスマイルカードと、現地での活動を報告する活動報告書をお送りしています。



# 年間活動報告(2006年4月~2007年3月)

2006年度は、夏と冬のインド支援地域の訪問の他に、財団のご支援者の方への情報発信、またより多くの方へ活動を知っていただくための広報にも力を入れてまいりました。壺阪寺の境内での新たな勧進ブースの設置、季節ごとの特設の活動紹介ブースなどを通して、多くの皆様に活動へのご理解、ご協力をいただきました。

## 4月 春の勧進

~6月 壺阪寺にやまぶきやつつじが咲き乱れる春は、多くの参拝者の方が来られます。2006年も春の勧進ということで、インドより持ち帰ったマンゴーの紅茶の試飲、販売をしました。

## 7月 インド訪問①

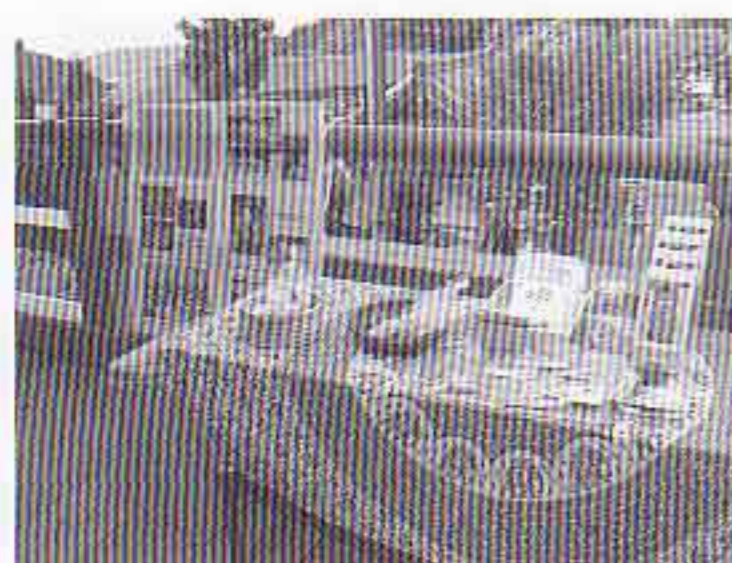
財団スタッフには1年ぶりのインド支援地の訪問。バンガロール、アグラ、ワルダ、カルカラを訪れ、事業について話し合いました。



## 8月 壺阪寺境内行事にてインド物品販売 壺阪寺花火大会にて財団募金コーナーの設置

## 10月 秋の勧進、ブログの開始

~12月 春に引き続き、秋の紅葉の美しい境内で財団の紹介ブースを出して、活動の紹介、勧進を行ないました。インド民芸品の他、めずらしいインドの紅茶を販売しました。



紹介ブースでは、インド支援先の女性たちが作った手作りのしおりやカード、コースターなど小物も販売し、大変好評でした。



広く、皆様に活動を知っていただけるよう、壺阪寺本堂の中にも、財団の紹介・勧進ブースを作りました。

また、インターネット上で財団の最新情報を紹介するブログも開始しました。

## 12月 大阪、神戸で委託販売の開始

神戸にある「アジア女性自立プロジェクト」にご協力いただき、大阪女性総合センター内、



フェアトレードショップゆう

「フェアトレードショップゆう」や神戸数ヶ所にて、財団の「1コイン国際協力」や「ラベンダーポップリ」、支援先の女性の作品などの委託販売を募金活動の一環として開始しました。

## 1月 お正月勧進

毎年恒例の壺阪寺福引大会の隣に財団紹介・勧進ブースを設置し、無人の勧進を行ないました。新年より多くの方がご協力くださいました。

## 2月 ワン・ワールド・フェスティバル参加



NGO、国連、政府機関など100もの団体と市民によって開催されるお祭り。当日は2万人ほどの市民が訪れ、財団の紹介ブースにも足を運んでくださいました。

## インド訪問②

2006年度2度目は、バンガロール、カルカラ、アグラを訪れました。

バンガロールでは、現地スタッフが企画したHIV/エイズのシンポジウムを開催し、現地のNGO、医療関係者、学生などが参加しました。財団スタッフも日本の様子を知ってもらうため、日本での福祉やNGO活動の様子を紹介しました。



シンポジウムの様子

カルカラでは、地元小学校へのコンピュータの寄贈、アグラでは、皆様のご協力で幼稚園・低学年用の校舎が設立されたロパ・ムドラ学校を訪れ、利用状況、生徒の様子などを見てきました。

AIV奨学の会の会員様にお届けするスマイルカードも、ロパ・ムドラ学校の生徒たちが作って送付してくれました。

皆様のあたたかいご支援のおかげで2006年度も財団の活動を続けることができました。財団、インド職員、子どもたち一同、本当に感謝しています。ありがとうございました。

アジア・アフリカ国際奉仕財団がインドでの支援活動を開始した最初の場所アグラでは、現在ロパ・ムドラ学校の運営助成に加え、壺阪奨学金 (Tsubosaka Scholarship Foundation) によって高等教育や医学生の支援を行なっています。



アグラ

## 幼稚園・低学年用校舎が完成しました！

2006年6月、これまでビニールシートの教室で雨風をしのぎながら勉強していた幼稚園と低学年の生徒たちのため、日本のみな様のご支援を受け、新しい校舎の建設を始めました。

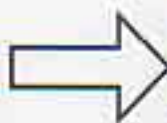
予定より少し完成は遅れたものの、2006年末にようやく4教室の校舎が完成、2007年1月からは小さな生徒たちが元気に勉強をしています。



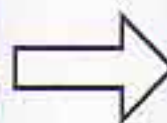
### ○完成にいたるまで・・・



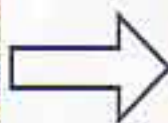
6月：炎天下の中、工事開始



7月：地震にも強い土台作り



8月：柱を建てて・・・



11月：外枠ができ、後は内装

### ○学校の様子

校舎が無事完成し、さっそく子どもたちが教室を使用し始めました。新しい教室はとても広く、以前のようにギュウギュウに座らず、のびのび勉強することができます。新しい教室で子どもたちも教員も、生き生きとした顔で張り切って勉強していました。

6月より、幼稚園・低学年用校舎の増改築のご協力をお願いをさせていただいてから、本当にたくさんのあたたかいご支援やメッセージをいただきました。みな様のありがたいお気持ちを受け、子どもたちの校舎完成のため、財団、現地スタッフ一同も力を尽くしてきました。ここにようやく校舎が完成しました。ご理解とご協力、本当にありがとうございました。

## ○授業料支援事業

ロパ・ムドラ学校では金銭的な理由によって退学してしまう生徒たちが多く、以前より支援を検討してきました。2006年7月に財団スタッフが訪問した際、「授業料支援事業」を決定し、8月より事業を開始しました。

### 支援内容

対象：幼稚園～10年生までの全学年  
授業料の滞納があり、学習継続が難しい生徒150名  
内容：授業料の支援  
その他：生徒やその家族の啓発のため、財団現地スタッフが家庭訪問を実施

### 家庭訪問の様子

スタッフが訪問した3年生のある男子児童は、成績はとても優秀ですが、身体に障害を持っており、家庭も経済的に大変苦しく、学校を続けることが厳しい状況でした。8月より授業料の支援を受けることになり、これからも学校に通うことを約束してくれました。

## ○補習クラス

授業料支援事業に加えて、学力低下による中途退学を減らすために「補習クラス」を2006年8月より開始しました。



### 支援内容

対象：①2～10年生までで教員が必要と判断した生徒  
②希望する生徒 計214名が参加  
教科：数学、理科、社会学、ヒンズー語  
コンピュータ



まだ小さい生徒の中には、教室から逃げ出そうとする子たちもいますが、熱心な教員たちが、説得したり、ビスケットを用意したりして子どもたちの勉強が遅れないように工夫しています。

## ○高等教育奨学金

2005年より壺阪寺奨学金のもと開始した高等教育奨学金は現在2校を対象に支援を続けています。

### 支援内容

対象：2校6名の12年生（2006年7月より4名）  
基準：成績の50%以上

昨年度は6名の生徒を対象にしておりましたが、2名の生徒が残念ながら成績基準に満たなかったため、2006年7月より2校、4名の生徒の支援を継続することになりました。

## ○医学生奨学金

2006年春に、医科大学に進学したい、という学生から申請がありました。これまでアグラでは医学生への奨学金はありませんでしたが、成績とエッセイ、何より学生の熱意に賛同し、この学生を支援することになりました。3月末には進学のための大きな試験があり、猛勉強中です。



### 支援内容

対象：医科大学希望者  
内容：大学進学のためのカレッジ授業料の支援

## ○その他



ワルダの壺阪寺救ハンセン奉仕財団運営のシャンティ・ニラヤム（婦人ハンセン病患者復帰施設）閉鎖に伴って、アグラに移った2人の姉妹を引き続き支援することになりました。

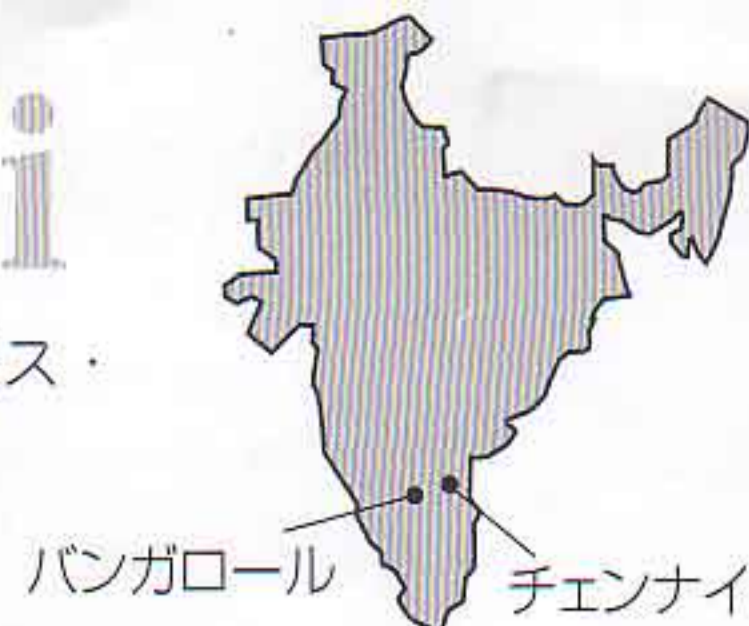
### 支援内容

対象：ワルダ、シャンティ・ニラヤムからの姉妹  
内容：学費、教材費

申請を受けて、2006年7月より学校の入学費、学費、教材費などの支援を始めました。2人とも新しい土地にも慣れて元気に生活しています。

# バンガロール、チェンナイ

バンガロール、チェンナイでは、当財団傘下現地NGO「ソーシャル・サービス・ソサイエティ(SSS)」を通して、教育助成事業を行なっています。



## ○南インド奨学金

チェンナイ、バンガロールの学生を対象に奨学金事業を行なっています。

### 支援内容

対象：幼稚園～大学院・専門学校生

成績基準：一般学生 65%以上

医学・工学専攻生 80%以上

月収基準：3,000ルピー（約7,500円）以下

### 2006年7月—2007年7月 奨学生数

学年	男	女	計
1年生	—	—	0
2年生	—	1	1
3年生※	5	5	10
4年生	2	1	3
5年生	1	—	1
6年生	2	1	3
7年生	1	—	1
8年生	1	1	2
9年生	2	1	3
10年生	3	6	9
11年生	1	1	2
12年生	—	1	1
大学院	1	1	2
工科大学	3	2	5
医科大学	2	2	4
計	24	23	47

※3年生はコンピュータ課外授業の支援

## ○学用品支援

チェンナイの農村地域の生徒を対象に学用品での支援をしています。

### 支援内容

対象：農村地域の生徒

内容：教科書 5～10年生 計94名

制服 6～8年生 計30名

## ○給食支援

### チェンナイ

インドでは、10年生修了時に州政府による試験「SSC」があります。とても重要なこの試験を前に、塾に通うことができない生徒を対象に、無料で放課後特別補習授業を行なう団体があります。

当財団では、補習授業前に「腹ごしらえ」するための給食支援を行なっています。

2006年度は10年生90名を対象としています。

### バンガロール

バンガロール郊外のスラム入り口にある幼稚園に給食支援を行なっています。

園児数は毎年30名。

2006年度は、男子12名、女子18名となっています。



一生懸命アルファベットの練習をしていた男の子。鼻についたチョークがかわいらしかった

事業11年目を迎えた南インド奨学金。

2006年、初めての工科大学卒業生が7名いました。その中のひとりが、今年IT関係の企業に就職し、「私も誰かの助けになれば」と、ソーシャル・サービス・ソサイエティ(SSS)に寄付をしてくれました。

「当奨学金を通じて、お金や物の支援だけでなく、『人を思いやる気持ち』も伝えたい」というSSSスタッフそして当財団の思いが奨学生に届いているのだと、とても嬉しく感じました。



ワルダでは、当財団傘下現地NGO壺阪寺救ハンセン奉仕財団を通じて奨学金事業を行なっています。

## ○壺阪寺救ハンセン奨学金

当財団設立当初より継続している奨学金事業。  
2006年度は、19名に支援させていただきました。

### 支援内容

対象：1年生～大学生  
(2003年度よりの継続生のみ)  
本人または家族がハンセン病患者であること  
(同じ家族からは2人まで)

## ○医学生奨学金

—カマラ デシカン女史 奨学金—

2006年度に設立。

アグラのロパ・ムドラ学校初代校長であり、当財団そして壺阪寺救ハンセン奉仕財団にご尽力くださったカマラ デシカン女史。

2004年に他界された後、その功績をたたえるため当事業を開始しました。デシカン女史が発展に力を注いだ医療機関「セワグラム」の中の医科大学生(5年)、看護学校生(2年)に学費の支援を行なっています。

2006年度は、医科大学生、看護学校生、それぞれ1名ずつ支援しています。

(2年毎に新規奨学生受入れ予定)

ワルダでは、当財団設立以前「壺阪寺」としてご支援させていただいていたところから、事業を継続しています。

このように『息の長い支援』が実現できておりますのも、ご支援くださるみな様、そして現地スタッフのおかげと、感謝しております。

本当にありがとうございます。

今後も安定した事業を続けていきたいと考えておりますので、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

## ○高等教育奨学金

2004年度に開始した「高等教育奨学金事業」。2つの学校を対象校とし、支援を行なっています。支援対象学年は11、12年生。

支援までの流れ

- ①対象校の10年生に奨学生募集の案内掲示
- ②支援希望者は10年生修了時の州政府試験(SSC)結果とエッセイを壺阪寺救ハンセン奉仕財団に提出
- ③A I Vが試験結果とエッセイにより選考
- ④11年生から支援開始

この2校は学力レベルが異なるため、それぞれの選考(成績)基準を設定しています。

### 対象校

#### ロク ビドヤラヤ校

幼稚園～12年生までの学校

しかし、11年生からは美術系のコースしかないため、他校へ進学する学生が多い

支援基準はSSC結果、11年生学年末試験ともに80%以上

#### マウラナ アザド ウルドゥ校

回教徒系の学校

幼稚園～12年生まで

回教徒は女性が外に出ることをあまり好まないため、「他教徒もいる学校には通わせない」との考え方もまだ根強く、回教徒のみのこの学校では男子生徒より女子生徒の方が多い

### 高等教育奨学金 2006年度奨学生数

学校名	11年生	12年生	計
ロク ビドヤラヤ	12	1	13
マウラナ アザド ウルドゥ	12	8	20
計	24	9	33

# AIV奨学の会報告書 発行時期変更のお知らせ

いつもあたたかいご支援ありがとうございます。ご支援者の方々に支えられ、2006年度も無事財団の活動を続けることができました。心より感謝申し上げます。

AIV奨学の会が設立してから、これまで報告書を発行してきましたが、現地スタッフからの助言により、さらに正確な報告書をお届けするため、来年度より発行時期を3月から10月へ変更させていただきたく思います。

インドの学校の学期は日本とは異なり、7月に始まり6月に終了します。そのためAIV奨学の会報告書を発行する3月の時点では、奨学生の数や事業内容が確定していない状況です。そこで発行時期を10月に変更することで、6月で完了した奨学金制度や事業内容を報告書で支援者の方々に報告したいと思っています。次期2007年度の活動報告書は2008年10月の発行になります。

より充実したAIV奨学の会の報告書のため、今後も努力を重ねていく所存です。皆様のご理解のほど、よろしくお願ひいたします。

アジア・アフリカ国際奉仕財団

## ご支援いただく方法

### \* 財団へのご寄付 \*

以下の口座番号へお願いいたします。

郵便振替口座番号：00980-9-116927

### \* 紅茶募金 \*

インド本場の紅茶を一缶1,000円(送料別途)でご購入いただき、利益を募金としていただいています。ご購入は「紅茶募金×個数」を明記の上、上記口座にお振込みいただくか、お電話、メールにてご注文ください。(壺阪寺境内にも置いています。)



### \* 1コイン国際協力 \*

1コイン(500円)でインド小物を購入いただく募金です。ご購入方法は、紅茶募金と同じです。



AIV奨学の会

2006年度活動報告書

(2007年3月31日発行)

【発行】

(財) アジア・アフリカ国際奉仕財団

Asia Africa International

Voluntary Foundation

\*\*\*\*\*

〒635-0102

奈良県高市郡高取町壺阪3

TEL: 0744-52-3172

E-mail: aivjapan@hotmail.com

ホームページ

<http://www.tsubosaka1300.or.jp/aiv/>

ブログ

<http://blogs.yahoo.co.jp/aivjapan18>